

渡邊社長が国際交通フォーラム（ITF）交通大臣会合 2026 に登壇しました

5月6日（水）～5月8日（金）にドイツ・ライプチヒで開催された ITF 交通大臣会合 2026 に、当社代表取締役社長の渡邊良が登壇しました。各国の閣僚や交通分野の民間企業経営者等が参加するなかで、渡邊社長は大臣ラウンドテーブルとオープンステージカフェに登壇し、TX 整備の経緯や沿線における取り組み等について発信しました。

大臣ラウンドテーブル「ビジョン主導の交通計画への移行：課題と機会」

(Shift Towards Vision-led Transport Planning: Challenges and Opportunities)

TX 沿線における、特別な法制度の下での国や地方自治体などによる鉄道建設と宅地開発の一体的推進の成果や、駅周辺開発の成功事例のさらなる展開に向けた、TX、自治体、民間事業者等との連携の必要性について発言しました。

▼国土交通省プレス発表資料はこちら

[報道発表資料「国際交通フォーラム（ITF）交通大臣会合 2026 が開催されました」](#)



(大臣ラウンドテーブルの様子)

オープンステージカフェ「鉄道と地域：地域との連携が形づくる、より良い大都市圏」

(Railways and Regions: How Collaboration with Communities Shapes Better Metropolitan Areas)

国土交通省主催のオープンステージカフェにおいて、「鉄道への投資と地域づくり」をテーマに、渡邊社長、フランス運輸省欧州・国際関係局長のブノワ氏、国土交通省総合政策局インフラシステム海外展開戦略室長の荒木氏による議論が行われました。

渡邊社長は、特別な法律に基づく鉄道整備と宅地開発の一体的推進、TXの駅や沿線地域で生まれた変化、鉄道と沿線自治体などの連携によるまちづくりなどについて発言しました。流山おおたかの森駅、柏の葉キャンパス駅、つくば駅での優良事例を交えて、豊かな生活環境に恵まれた住宅、商業施設、教育・研究機関、企業などが集積し、沿線人口が増加し、多様な魅力にあふれたまちが形成されていることを紹介しました。

また、こうした成功事例は、制度設計や地域ごとの関係者の主体的な取組みの積み重ねによるものであり、鉄道整備単体ではなく、地域の関与が不可欠であることについて発言しました。

さらに、今後の東京駅延伸や臨海地域地下鉄との一体整備の構想を見据えつつ、これまでに蓄積された知見を活かした成功モデルの他駅周辺への展開、沿線価値共創の新たな枠組み（TX コラボリング）が求められることについて述べました。

フランス運輸省のブノワ氏からは、グランパリエクスプレスの取組が紹介されました。

最後に、これらの取組が示唆する、鉄道と地域との連携による効果、都市圏のビジョンと鉄道への投資とを結びつけながら、駅を基点とした地域の暮らしや魅力の創造を図ることの重要性などについて、国土交通省の荒木室長から総括コメントがありました。

▼国土交通省プレス発表資料はこちら

[報道発表資料「ITF サミット 2026 において「鉄道と地域」に関するオープンステージカフェを開催しました」](#)



(オープンステージカフェの様子)